



常 念

堀金小学校だより

No. 6

令和8年10月14日(水)

秋の校外学習・行事 ～チャレンジと協力で一步前へ！～

高遠宿泊学習（5学年） 9月16日（水）、17日（木）



初日は雨天のため、一部予定を変更しての活動となりました。それでも子どもたちは、マイ箸づくりでは一人ひとりがこだわりをもって製作し、野外炊飯では仲間と協力しておいしいカレーを作り上げ、おいしくいただきました。夜のキャンドルサービスでは、火の神の登場や学年みんなでダンスを踊って大いに盛り上がりしました。

2日目は爽やかな晴れ間のもと、グリーンアドベンチャーに挑戦。秋の深まりゆく自然を全身で満喫しました。どの活動にも笑顔で前向きに取り組む子どもたちの姿が印象的な、充実した2日間となりました。

修学旅行（6学年） 9月30日（水）～10月1日（木）



初日は雨模様の天候でした。国会議事堂を見学して政治の役割を学び、スカイツリーでは大展望とはいきませんでした。大都市の広がりを感じるとともに、「今度は晴れた日に来たい！」と前向きな声も聞かれました。この他にも、切子体験、東京タワーでのお土産選び、夕食バイキングと盛りだくさんな一日を過ごしました。

2日目は晴天に恵まれました。江戸東京博物館で歴史の深さに触れ、「はなやしき」（遊園地）で思い出に残る楽しい時間を過ごしました。マナーを守り、仲間と協力して行動する姿には最上級生としての成長を感じました。

生活科野外学習（1学年） 10月2日（金）



あづみの公園で1日学習しました。「自然観察」では、おもしろい形のきのこやドングリや栗などを見つけ、秋の自然の豊かさを肌で感じていました。広々とした場所での「園内遊び」で思いきり体を動かした後は、「クラフト体験」を実施。木材に色を塗ったり絵を描いたりして、自分だけのメモクリップを作りました。「理科教室」では、貴重なオオルリシジミのお話も聞くことができました。五感全体で秋を感じ、自然と仲良くなれた一日となりました。

稲刈り（5学年） 10月5日（月）



5月に田植えをした稲が実り、稲刈りをしました。子どもたちは、慣れない鎌の扱いに緊張しつつも丁寧に稲を刈り取り、収穫の達成感を肌で感じていました。その後は、大型コンバインでの脱穀作業までを体験しました。作業を終えた児童からは、「カマで刈るのが難しかったけれど、コツをつかむと楽しかった」といった声が聞かれました。毎日当たり前のように食べているお米が、どれほどの手間と愛情をかけて作られているかを学ぶ体験ができました。

拾ヶ堰クリーン大作戦（5、6学年） 10月8日（木）



5、6年生が、公民館を通じてお集まりいただいた約30名の地域ボランティアの皆様とともに、拾ヶ堰の清掃活動を行いました。

子どもたちはトンゴやバケツを手に堰へ入り、地域の方々とも協力して作業を進め、見つけた空き缶やビンなどのゴミを一輪車へ集め、燃えるゴミや金属類等に分別していきました。また、作業中には、カニやエビ、ドジョウなどの生き物を見つけるなど、拾ヶ堰の自然環境について理解を深める機会にもなりました。

今回集まったゴミは200kgに上りました。自分たちの手で回収した分だけ拾ヶ堰がきれいになり、子どもたちも大きな達成感を味わうことができました。回収量は年々減少しているとのことで、長年にわたるこの活動によって拾ヶ堰の美化が着実に進んでいることを実感しました。ご協力いただいた地域の皆様、ならびに拾ヶ堰土地改良区・市生活環境保全課の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

10月7日 校長講話

堀金小学校の校歌に込められた願い

今年度は、堀金小学校ができてから140年という節目の年を迎えます。そこで今年の音楽会では、堀金小学校が大切にしてきた「校歌」を、児童のみなさんだけでなく、保護者の皆様や地域の方々、卒業生のみなさんと一緒に歌いたいと考えています。校歌は学校で何度も歌っていると思いますが、どんな歌なのか、どのようなメッセージが込められているか知っていますか？今日はその意味をみんなで考えてみたいと思います。



まず、この校歌はいつ頃できたのでしょうか。今から約109年前、大正6年（1917年）に作られました。作詞をしたのは輪湖 卓三さん、作曲をしたのは折井 満さんという方です。大変珍しいことに、お二人は当時の「堀金学校」の先生でした。堀金小学校の歴史が書かれた本によると、お二人は「子どもたちが歌いやすい歌にしたい」「応援歌にもなるよう、元気よく二拍子で堂々と歌える曲にしよう」という思いを込めて作ったそうです。

では、歌詞の意味を順番に見ていきましょう。1番の歌詞には、少し難しい昔の言葉が出てきます。「八重の白雲 おししのぎ そびゆる日本アルプスの」とありますね。意味をまとめると、「たくさんの白い雲を押し上げて高くそびえる北アルプスと、その中で空に向かって力強く誇り高くそびえ立つ『常念岳』の雄姿」を描いています。堀金や安曇野の人々にとって、常念岳はとても大切な山です。気高く力強い常念岳のように、みなさんにもこの堀金小学校で立派に育ってほしいという願いが込められています。

2番には「ふもとに開くる 烏川」という歌詞が出てきます。意味をまとめると、「山のふもとを流れる清らかな烏川と、地域の方々の温かい心によって学校が建てられ、今日まで多くの地域の子子どもたちが育ってきた歴史」を表しています。烏川の透き通った水のように、「心が清らかで素直な人に育ってほしい」という願いが込められています。

3番は、1番（常念岳）と2番（烏川）を踏まえた一番大切なメッセージです。「ここにつどえる 学びごよ… 光を四方にかがやかせ」とあります。常念岳のように大きな夢や目標を持ち、きれいな烏川のように心を磨き、金鉄のように強い心身を鍛え上げてほしい。そして、自分が磨いた力で周りや未来を明るく照らせる人になってほしい、という強い願いが込められています。

100年以上前からの想いが、この校歌には詰まっています。歌詞に込められた意味や情景を思い浮かべながら、心を込めて歌っていきましょう。